



シリーズ版 ⑨



認知症の症状

けい さんしょうがい ～計算障害～

たし算やひき算の簡単な計算ができなくなることを「計算障害」といい、おつりの計算ができなくなったり、支払う金額を間違えたりすることもあります。

店のレジやATMで、困っている方を
みかけたことはありませんか？

4コマのおじいさんの場合

- どの小銭を何枚出せばよいか分からず、大きい額のお金を出している。
- 小銭の種類や枚数を具体的に伝えると、うまく支払うことができた。



声をかけたり、次の動作を伝えるなど
ちょっとした手助けが必要です。

対応の心得

3つの「ない」で接しましょう。

- 1 「驚かせない」
まずは見守りましょう
× 後ろから声掛けする
- 2 「急がせない」
おだやかに、やさしい口調で
話しかけましょう
× 「さっさとお金払ってください!」
- 3 「自尊心を傷つけない」
困っていることに耳を傾け、
一緒に考えましょう
× 「そんな大きいお金を出さないでください!
小銭あるでしょう!」



認知症とともに生きる～ほっとけんまちレポート～

このコーナーでは、「認知症の方が自分らしく安心して暮らしていく」ことをテーマに、ご本人やご家族の体験や日頃感じている思いをお聞きしています。

《 家族のサポートを受けながら、好きな日課を続けているAさん 》

Aさんは、認知症と診断され通院しています。介護サービスは利用せず、ご夫婦で「認知症カフェ」に参加し、情報交換をしたり、生活の相談を受けながら住み慣れたご自宅で生活されています。

Q 一番大事にしていることや取り組まれていることはありますか？

Aさん

毎日歩いてるんや。
ここら辺は庭のようなもんでな。



ご家族

1人で散歩に行くことは心配ですが、無事に家に戻ってくるので本人のために行かせています。散歩の途中、顔なじみの人と会うと話をしたり、交番のお巡りさんに、声をかけてもらうこともあります。私は、本人に合わせて生活しているとストレスがかかるので、自分の好きなこと(読書)をして、気持ちを軽くしています。

Aさんは、自宅に戻れなくなった場合に備えて、「敦賀ままもりネットワーク」に登録されています。



担当T

Q 生活の中で心配や困りごとはありますか？

ご家族

一番の心配ごとは、自分が倒れたら本人はどうなるのか、ということ。いざという時のため、周りの方々にも認知症であることを伝えていきます。また、本人の運転が不安になってきているので、助手席に必ず同席しています。

車は、買い物や通院のために必要ですが、免許証の返納についても、本人と話しており、返納後の生活についても相談したいです。

運転が不安な方は、専門機関で運転評価を受けることができます。運転が難しい場合、地域包括支援センターでは、運転に代わるサービスについて相談することができます。これからのことを一緒に考えていきましょう。



敦賀市認知症相談ガイドブック(改訂版)を発行しました!



「認知症予防」と認知症になったときのための「備え」はどちらも大切です! 家族のため、自分のためにぜひご活用ください。

「備え」3か条

1. 困った時の相談先を知っている
2. 認知症について詳しい
3. 認知症ほっとけんパスが手元にある

内容

- 認知症を正しく知ろう
 - 認知症に早く気づこう
 - かかわり方のポイント
 - 認知症ほっとけんパス
- …認知症の症状に合わせたサービスが一目で分かります



「敦賀市認知症相談ガイドブック」は、市役所長寿健康課で配布しています。市ホームページからもダウンロードできます(右のQRコードからも読み取りできます)。



QRは株式会社デンソーウェブの登録商標です

認知症ほっとけんまちハンドブック シリーズ版⑨ 令和3年3月発行



敦賀市 認知症サポーター数: 12,533人 (R3.1.31 現在)

※ご依頼があれば、どこでも「認知症サポーター養成講座」を開催できます。長寿健康課までご連絡ください。

発行: 敦賀市 長寿健康課 ☎22-8181
協力: 敦賀市認知症支援推進協議会

次号につづく

